

WHO-FIC ネットワーク年次会議（2016、2017） 及び ICD-11 改訂会議の報告

〔WHO-FIC ネットワーク年次会議（2016）〕

主催 WHO、日本 WHO 国際統計分類協力センター
開催期間 平成 28（2016）年 10 月 8 日（土）～12 日（水）

〔ICD-11 改訂会議〕

主催 WHO
開催期間 平成 28（2016）年 10 月 12 日（水）～14 日（金）

会場 東京（日本）：東京慈恵会医科大学、東京国際フォーラム
参加者 各 WHO 国際統計分類協力センター、WHO 加盟国保健・統計部局等、WHO 本部、WHO 各地域事務局他、約 50 カ国約 300 名

【主な議論】

1. 全体として

- ICD 改訂会議の開会式^{*}では、厚生労働省の古屋範子副大臣他から挨拶があり、本年開催された G7 のコミュニケに触れながら、人々の健康の礎としての ICD の意義が紹介され、WHO のマーガレットチャン事務局長からは ICD-11 の幅広い活用への期待が述べられた。

※診療情報管理協会国際連盟（IFHIMA）、日本診療情報管理学会と共同開催

- ICD-11 改訂会議においては、WHO、各国政府、研究所、専門家等により、ICD-11 の活用や医療情報を取りまく環境、母子保健や精神保健、伝統医学等における動向など、様々なセッションにおいて議論が行われた。

また、加盟国への意見照会に使用する ICD-11-MMS（International Classification of Disease for Mortality and Morbidity Statistics、死亡・疾病統計用分類）を紹介した小冊子が配布された。（インターネットからもダウンロード可能）

- WHO-FIC ネットワーク及び ICD-11 改訂のための運営組織が改正されることが報告された。
- WHO-FIC ネットワークの各委員会議長の改選が実施され、以下のとおり日本からは再任 1 名、新任 2 名の議長が選出された。

分類改正改訂委員会 URC : Update and Revision Committee	新 新	<u>Jenny Hargreaves</u> （豪） <u>Lucilla Fattura</u> （イタリア）
教育普及委員会 EIC : Education and Implementation Committee	再 再	<u>Huib ten Napel</u> （オランダ） 横堀由喜子（日本：日本病院会）
国際分類ファミリー拡張委員会 FDC : Family Development Committee	再 新	Lyn Hanmer（南ア） <u>Andrea Martinuzzi</u> （イタリア）
情報科学用語委員会 ITC : Informatics and Terminology Committee	新 新	Cassandra Linton（カナダ） <u>中谷純</u> （日本：東北大学）

死因分類グループ MRG : Mortality Reference Group	再 新	Francesco Grippo (イタリア) 中山佳保里 (日本 : 厚生労働省)
疾病分類グループ MbRG : Morbidity Reference Group	新 新	Olafr Steinum (スウェーデン) Bill Ghali (カナダ)
生活機能分類グループ FDRG : Functioning and Disability Reference Group	新 新	Haejung Lee (韓国) Matilde Leonardi (イタリア)

※上記表のうち、下線の者及び Lynn Bracewell (英国) , Patricia Wood (カナダ) が、会議後、WHO-FIC ネットワークカOUNシル SEG メンバーに選出された。

2. 各委員会等における主な議論 (ICF 関連)

- 分類改正改訂委員会 (URC) : 主な活動としては、ICD-10 と ICF の中心分類 (reference classification) の構築、ICD-11 改訂において ICD-10 からの移行に関する検討が行われている。

ICF に関しては ICF 構築過程の改善を計画している。

ICF 項目に関する投票結果は、「別紙1」参照。
- 生活機能分類グループ (FDRG) では、ICF2016 の完成に向けて作業を実施しているほか、ICF user survey を実施している。

また、ICHI 構築において生活機能 (Function) 面からのアドバイスを実施している。今後新たに取り組むべき課題としては、ICF2016 の完成、ICF のオントロジー (Ontology) の実現に向けた作業、ICF practical manual の作成とテストなどがある。

今後引き続き実施する項目としては、ICF 及び WHO-DAS のアップデートと改訂、ICF オントロジーの開発、ICF 教育の実施などである。
- 教育普及委員会 (EIC) では、ICF の教育に関して、e ラーニング・ツールの開発を実施している。

〔WHO-FIC ネットワーク年次会議（2017）〕

主催	WHO 及びメキシコ保健省
開催期間	平成 29（2017）年 10 月 16 日（月）～21 日（土）
会場	世界貿易センター（メキシコシティ）
参加者	WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等

【主な議論】

1. 全体として

- 1) WHO では、引き続き持続可能な開発目標（SDG）とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に取り組んでいるほか、昨年度 WHO-FIC 会議からの大きな変更点としては、新しい DG が選ばれたことであり、現在新しい体制で運営が開始されている。また、当該部署では新しい事務局長補(ADG)^{※1,2}に Lubna A Al-Ansary（サウジアラビア）が任命されたほか、新しい Director として Gates foundation から John Grove^{※3}が就任した。
- 2) WHO-FIC Network も拡大を続けており、分類・ターミノロジー・標準（CTS）協力センターには、中国の National Health Department 研究センター等が新たに加入した。
- 3) WHO-FIC Family においては、新たな family を規定するものとして family paper が作成され、また family 間のマッピングシステムも構築されつつある。
- 4) ICD に関しては、2018 年 6 月の implementation に向けて、引き続き作業を実施しており、様々なインプットがなされている。またクラウドへの移行も開始しており、より利便性の高いものになる予定である。さらに、ICD のための新たな URI: icd.who.int/が取得され、公表版でもこの URI を使用する。
- 5) ICF に関しては ICF2017 が完成し、オンライン版はブラウザにアップロードされている。また ICF の Education platform、practical manual は最終校正の段階であるほか、ICD-11 に functioning の章が作成された。
- 6) ICHI はベータ版と ICHI ブラウザ（<https://mitel.dimi.uniud.it/ichi/>）が本会議にて紹介された。
- 7) WHO-FIC network においては、カウンスル共同議長として、Lynn Bracewell 氏（英）が継続となり、Donna Picket 氏（米）が新たに選出された。また、URC が終了し、CSAC が設立されるなどの変更があった（継続性を考慮し、当面、共同議長は現 URC 議長が務める）。

※ 1 : Lubna A Al-Ansary 氏は、Marie-Paule Kieny 氏の後任。

※ 2 : UHC 担当の ADG には、日本の山本尚子氏（厚労省出身）が就任している。

※ 3 : John Grove 氏は、Ties Boerma 氏の後任。12 月に来日予定。

2. 各委員会等における主な議論（ICF 関連）

- ・ 分類改正改訂委員会（URC）では、
 - ICF 構築過程の改善を計画している。
 - ICF 項目に関する投票結果は、「別紙 2」参照。
- ・ 生活機能分類グループ（FDRG）では、
 - ICF Practical Manual は現在ドラフトの段階にあること。
 - 今夏実施された ICF Survey の結果報告が公表され、回答総数（約 400 客体）のうち、日本が約半数を占め、事務局より直接感謝の言葉を頂いた。なお、全体の結果としては、ICF の認知度は高いものの、評価指標や WHODAS の利活用はそれほど高くなかった。
 - アララコス・シエザ氏より、「Rehabilitation 2030」と題して、2030 年までのリハビリ強化を重点としたデータ収集の行動計画がプレゼンテーションされた。
- ・ 教育普及委員会（EIC）では、
 - ICF ウェブサイト：新たなページを設け、登録者が ICF 関連情報を載せられるようになった。
 - ICF eラーニングツールが完成し、間もなく WHO のウェブサイト上に公開される。

3. その他

- ・ WHO により採択されたポスター約 100 題が会場に掲載された。
 - ・ ポスターセッションにおいて、日本から 9 題を登録し、以下の 2 題を口頭発表した。
 - ・ 「Field Test of ICD-11 in Japan」 水島洋（国立保健医療科学院）他
 - ・ 「The Development of New Assessment tool of Speech-Language-Communication in children - An Attempt to promote the use of children-related categories of ICF in Japan」 玉井智（国立成育医療センター）他、発表：森桂（厚生労働省）
- ※発表資料は、「別紙 3」参照

4. 今後の会議日程

- ・ 2018 年は韓国で開催予定（会議後の情報により、日程は 10 月 22-28 日）。